

新型コロナウイルス デルタ株とワクチン ~続き~

異なるメーカーのワクチンの組み合わせ接種

一回目接種後の副反応が重く二回目は違うワクチンを接種したい方、アメリカでJ&J製のワクチンを接種したけれど日本に帰る前にファイザーかモデルナを接種すべきか検討されている方等いらっしゃると思います。アメリカではファイザー、モデルナ、ヤンセン(ジョンソン・ジョンソン)製のワクチンが接種されていますが、日本ではファイザー、モデルナ、アストラゼネカ製のワクチンのみが新型コロナウイルスワクチンとみなされ、これらのワクチンを接種済みの方は、日本入国後の自宅待機期間を14日間から10日間に短縮してもよいことになりました。

同じ種類のワクチンを接種し続けようと今までCDCは推奨してきましたが、最近の研究結果により、ブースターでどのメーカーのワクチンを打ってもよいと変更されました。タイミングとしては、ファイザーやモデルナを最初に接種した方は、二回目接種から6ヶ月以降、ヤンセンを接種した方は2ヶ月以降(図2)となっています。

ブレイクスルー感染

ワクチン接種完了して2週間以上経過した後に感染することをブレイクスルー感染といい、7月から増加しました。ブレイクスルー感染は、デルタ株の強力な伝染性やワクチン接種後にできる抗体が徐々に減ってしまうことが関与しているのかもしれませんが、他の感染症でも起こります。

ワクチン接種開始後に感染者が急激に減ったことから、ワクチンは感染を防ぎコロナを収束させるのだらうと世の中が過信してしまった反動もあり、ブレイクスルー感染の衝撃は大きく、ワクチンを打っても意味がなく副反応だけ起こるのではないかという危惧もでてきました。その後、データが出揃ってきて、以下のことが分かりました。

- ワクチンは、100%有効ではないものの、デルタ株に感染するリスクを下げられ、感染予防効果は40-87%で推移している¹⁾²⁾³⁾。
- ブレイクスルー感染が起きてしまっても、重症化したり死亡するリスクは、未接種者が感染した場合に比べて圧倒的に低い⁴⁾。
- 社会全体で考えると、ワクチン接種率を上げることで、コロナの流行は抑えられ新しい変異株の出現を防げる。

私の勤務先では入院患者さんの中でワクチン未接種者の割合は90%辺りで推移しています。ワクチン未接種者に高齢者は少なく、ブレイクスルー感染者には高齢者、基礎疾患がある方が多い傾向があります。ワクチン未接種の患者さん達に何故接種しなかったのかを聞いてみると、マスコミで報道されているようなワクチン強硬反対派の方はほとんどいなくて、ワクチンの有効性がよく分かっていなかった、自分がコロナにかかるとは思っていなかったとおっしゃる方が多く、こんなに苦しい思いをするコロナにもう一度かかりたくないから回復したらワクチンを接種するという方がたくさんいらして、正確な情報を多くの人々に提供する大切さ、難しさを再認識しました。

3回目の新型コロナウイルスワクチン:ブースター接種

当初のワクチンによる感染予防効果が落ちてきてしまったのを再び高めることを目的として9月にブースター接種が開始されました。現時点でブースター接種が推奨されているグループの一覧が図2に示されています。最近、モデルナやヤンセン(ジョンソン・ジョンソン)を接種した方のブースターも適応になりました。詳細はCDCのホームページをご覧ください。副反応は一度目、二度目と同程度と言われています。インフルエンザなどの他の予防接種と同時に接種していいことにもなっています。

最初のワクチンの種類	適応	基礎疾患	タイミング
ファイザー、モデルナ	65歳以上	全員	2回目接種より6か月後以降
	18歳以上	長期療養施設などに住んでいる方	
	18歳から64歳の方	基礎疾患のある方	
	18歳から64歳の方	感染リスクの高い職場勤務の方	
ヤンセン(ジョンソン・ジョンソン)	18歳以上の方	全員	初回接種より2ヶ月後以降

図2 10/28/2021の時点で、CDCからブースター接種が推奨されているグループ一覧参照先(10/28/2021)

さいごに

多分、皆さんがこの記事を読んで下さっている頃には5-11歳のワクチンや内服薬に関する推奨などが発表されているかもしれませんね。正確な最新情報をもとに元気に過ごしましょう!



※同講演の動画は[商工会HP](#)にて公開しておりますのでご覧ください。

【免責事項】

この原稿は、グレーターヒューストン日本人会のイベント「コロナでも頑張ったあなたへ」の中で、テキサス州立大学ヒューストン校感染症科息子真之医師と共同で行った「コロナ最新線情報とQ&A」講演の資料をもとに作成致しました。2021年10月28日時点での最新情報を記載していますが、その後アップデートされた内容もあるかと思えます。最新情報はご自身でご確認下さい。

【参考文献】

- 1) Lancet 2021 Jun 26;397(10293):2461-2462
- 2) MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2021 Aug 13;70(32):1084-1087
- 3) <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/variants/delta-variant.html> (10/13/2021アクセス)
- 4) <https://covid.cdc.gov/covid-data-tracker/#vaccine-effectiveness> (10/13/2021アクセス)

福田由梨子先生

2003年横浜市立大学医学部卒。ベイラー医科大学感染症科所属。米国内科・感染症科専門医、創傷治療学専門医、医学博士。コロナオンライン勉強会を通じて、ヒューストン在住の日本人の方々にコロナ関連の最新情報を発信。



息子真之先生

2005年福井大学医学部卒。テキサス州立大学ヒューストン校感染症科、米国内科・感染症科専門医。日本で研修等を修了後、米国ニューヨークにて内科と感染症の研修を修了し、2016年よりテキサス州立大学ヒューストン校の感染症科にて勤務。新型コロナウイルスの治療・活動を通じ、米国における日本人コミュニティーの方々への正しい知識の普及に尽力中。

